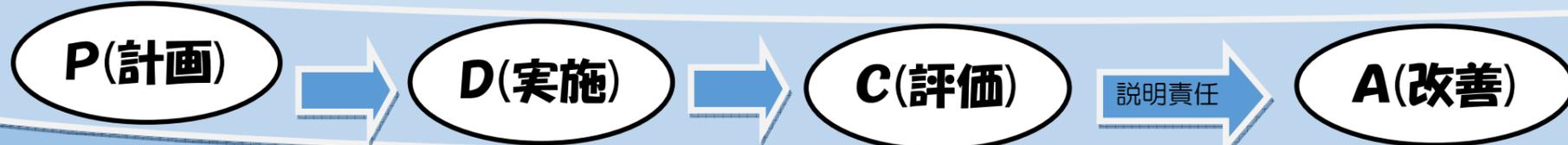


令和5年度 清竜中学校 評価シート



【児童生徒の学力状況】

項目	優れている点	伸ばしたい点
【キャリア教育の基礎的汎用的能力】 ①かかわる力 ②見つめる力 ③挑戦する力 ④つなげる力		
学習意欲	・3分前入室・2分前着席・1分前黙想の習慣が全校で身に付いており、落ち着いた態度で授業に取り組む。 ・まじめに授業に取り組み、言われたことは素直に受け入れる。	・見通しや目的意識を持つ力 【キャリア④】 ・自主的、自発的に取り組む力 【キャリア②】 ・学習課題をもって、計画的に進めていく力 【キャリア③】 ・計画的に地道に取り組む力 【キャリア④】
言語活動表現力	・正しい言葉遣いで相手に自分の考えを伝えることができる。 ・小集団での話し合い活動に積極的に参加することができる。	・他者とかかわり、コミュニケーション能力を高め合おうとする力 【キャリア①】 ・順序よく考え、論理的に説明する力 ・ タブレットで自分の考えを書いたり、意見交換したりする力 【キャリア①】
家庭学習	・与えられた学習課題は概ね期日を守って取り組むことができる。	・身につく家庭学習の習慣づけ ・自己の目標を掲げて、計画的、継続的に学習する姿勢 【キャリア④】

【達成目標】 * 数値目標

- キャリア教育の推進・・・自分らしい生き方を追究していく要素となる「基礎的・汎用的能力」を身に付ける
 - ★将来について考え、「やりたいこと、やってみたいことに取り組む」生徒 90%
 - ★命の大切さ、社会のきまりを理解する生徒 100%
- 学力保障・・・なぜ学ぶのかを意識し、自らの思いや考えを素直に表現できる生徒を育てる
 - 「主体的・対話的で深い学び(校内研修)」の工夫
 - ・与えられた課題に対してまじめに取り組むことができる生徒 95%
 - ・授業の中で、積極的に自分の意見を発言できる生徒 80%
 - ・先生や友達の話真剣に聞くことができる生徒 100%
 - ・知りたい、やってみたい、できるようになりたいと思う授業をしてくれる先生 100%
 - ・学習活動の中で、話し合い活動を取り入れた授業をしてくれる先生 100%
 - 個に応じた学習相談
 - ・家庭学習では宿題にしっかり取り組む生徒 90%
 - ・勉強が分からないとき、手助けしてくれる先生 100%

【学力向上に向けての各教科での具体的な取り組み】

<学習意欲> 導入・発問の工夫、タブレット端末を活用した交流活動、すべての生徒が参加できる授業の工夫。
 <表現力> テーマに迫るまとめ活動、聞く人を意識した発表会の実施。
 タブレットで自分の考えを短文に書き留め、それをもとに意見交換できる場の設定。
 <言語活動> TT・取り出しを有効活用した、小集団での話し合い活動や集団討論の実施。
 <家庭学習> 年度始めの教科オリエンテーション、定期テストごとの取組への反省と振り返り。

自己評価

【全国学力・学習状況調査の結果から評価(3年)】

<国語> 15 問出題の正答数は全国平均、静岡県平均並み。
 ・「書くこと」のうち記述式が弱く、書くことを苦手としている。
 <数学> 15 問出題の正答数は全国、県をやや下回る。
 ・知識・技能に優れ、思考・判断・表現は下回る。
 <英語> 17 問出題の正答数は全国、県を上回る。「聞く」「読む」に強く、「書く」特に記述式に弱い。

【浜松市定着度調査の結果から評価(2年)】

<国語> 文章にあった資料を選び、資料からの情報を踏まえて自分の考えを述べる事ができた。ただ問題文で提示されている条件を読み落としている生徒が多い。
 <数学> 文章を読み取る読解力が必要だが、意図が読み取れず勘違いをした解答が多い。また的確な表現で説明できない。
 <英語> 文構造が理解できている生徒は多い。冠詞や三単現のsなど細かなミス、的確な表現ができない。

将来について考え、やりたいことに挑戦している	76% ↑
命の大切さ、社会のきまりを理解している	96% ↑
与えられた課題に対して、まじめに取り組んだ授業の中で積極的に自分の意見を発言できた	86% ↑
知りたい、できるようになりたいと思う	57% ↓
先生は勉強が分からないときは手助けをしてくれる	94% ↑
家庭学習では宿題にしっかり取り組んでいる	74% ↓

※矢印は昨年度からの比較を表す

【3年間を見通した改善策】

- ◎授業が尻切れにならないように、1時間の授業ごとにまとめと振り返りの活動を行い、個々の課題を意識づけさせる。
- ◎特に書く活動での個人差が大きいので、代わりにタブレット入力などの手法も取り入れてみる。
- ◎学習形態を工夫し、生徒同士が学び合う授業を工夫する。取り出し・入り込み・難易度別の課題設定による個別支援の充実。

【1, 2年生の改善策】

- ◎出題意図、問いの内容を理解できるようにするために、日々の授業で課題提示の表現を工夫する。
- ◎「書く」活動の弱さを克服するために、必要な語を用いた短文づくりの機会を増やし、粘り強く個々に添削指導を行う。
- ◎個→集団の後、個へ戻して根気強く取り組む機会を設定する。難易度別の課題を準備する等。

【改善策】

- ◎自分の成長を感じ、今の活動が未来に繋がっていることが意識できるような振り返り活動を設定する。
- ◎できるようになりたいという気持ちが成果となって表れ、達成感を味わえるような機会を設定する。
- ◎タブレットを使った発言、そこから広げた話し合いなど、発信に自信が持てる機会を増やす。
- ◎家庭学習の内容、質を見直し、定着に繋げる。

学校関係者評価 (学校運営協議会)

- アンケート結果の細部にわたる分析で生徒や保護者の実情がよく分かる。
- 昨年度「夢を持ち将来を考える」のアンケート改善を提案したが「やりたいこと、やってみたいことに取り組んでいる」に変更した結果が良く安心した。
- 読書の結果が年々悪くなっていて気になる。読書活動の充実が図れるようにできると良い。
- 家庭学習、予習復習、積極的な授業参加の結果が上級生ほど良くないのは「現状のままでいい」という意志の弱さの表れなのか。
- 防災教育の充実が必要。地域人材も活用していけるとよい。

改善策

- 「相談しやすい先生」「勉強を助けてくれる学校」の数値が上がっている。今後も信頼を得られる学校づくりに向け、継続して取り組む。
- ICTを活用しつつ積極的な授業参加ができる授業改善に取り組む。
- 「自分の未来」「地域の将来」に繋がる、福祉、防災、職業体験をCSの協力を得ながら充実させていく。
- 読書活動の低下に歯止めをかけられるような取組を模索していく。